

エスターハージー・ワイナリー 醸造責任者 ヨゼフ・プッシュュ：  
新しい醸造責任者と共に好調な滑り出し

エスターハージーでは新しいワイナリーが完成しましたが、「新しいエスターハージー・ワイナリー」の醸造責任者にワイン醸造の権威者、ヨゼフ・プッシュュが就任したことで将来に向けまた新たなレールが敷かれました。



2008年3月1日からエスターハージー・ワイナリーのワイン醸造責任者にヨゼフ・プッシュュが就任しました。プッシュュは23年間にわたり、オーストリアで最も名声の高い赤ワイン協同組合「フェアアインテン・ヴィンツァー・ホリチョン」の幹部として従事してきました。1995年からは、F.X.ピヒラー、マンフレッド・テメントおよびチボー・セメスらによる、オーストリアの赤ワインを世界に広めるための「アラホン」の醸造所の管理およびブドウ畑経営の責任者を務めました。

ヨゼフ・プッシュュの夢が叶いました！

プッシュュにとっては一つの夢が叶いました。エスターハージー・ワイナリーのState-of-the-art ワイナリーが新しくオープンした時すでに、技術フリークのプッシュュ（当時はアラホン在籍）はエスターハージー・ワイナリーの持つ潜在的な可能性に夢中になっていました。「今日技術的に可能なことを全て実践できる夢のようなワイナリー。当時私は、一緒に視察した人たちに『ここで一度醸造責任者になってみたいものだ！』と語っていたんだ。そして本当に幸運の女神が私のところにやって来た」とプッシュュは語ります。

白と赤の挑戦

ヨゼフ・プッシュュが担当するのはワインの醸造ですが、ブドウ畑は、プッシュュとも話し合った結果、ルドルフ・クリザンとそのチームが引き続き担当することになりました。赤ワイン造りの経験が豊富なプッシュュが、今後エスターハージーにおいてとりわけ楽しみにしているのは、白ワイン醸造の機会が増えることです。ホリチョン村の協同組合の仕事に従事する以前に、プッシュュはヘルベルシュタイン農場で働き、主に白ワインを生産していた経験があります。最近では、ホリチョン村において、少量ながら非常に質の高い白ワインを醸造していました。47歳のプッシュュは「新たなことに挑戦するのに、ちょうどいい時期」と話し、ウインクしながら「そうではなければ、アラホンで定年を迎えていたよ！」と話します。

17  58

ESTERHÁZY  
A U S T R I A



### 将来のため方向転換

エステルハージーの CEO ドクター・ステファン・オットルベイは新しい醸造責任者が就任したことで、ワイナリーの輝かしい未来に向け重大な方向転換をおこなったと確信しています。「ヨゼフ・プッシュはワイン醸造および経営に関する造詣が深いが、加えて大規模な企業における経験もある。私たちにとっては理想的な人材である。一緒に素晴らしいワインを生産することを楽しみにしている」

財団法人エステルハージー

ワイナリー エスタハージー

CEO ドクター・ステファン・オットルベイ

17  58

ESTERHÁZY

A U S T R I A